

国語 小学4年

発展編

● 本書の構成と特色 ●

■ 全体の構成

この本は、漢字やことばの知識や、物語・説明文・随筆・詩についての基本的な読解力を
のばすとともに、高度な応用力まで身につけ、国立・私立中学の受験にも対応できるような
構成になっています。

■ 単元の構成

各単元は、「確認問題」と「練成問題」とが一題ずつ、あるいは、「練成問題」が二題によ
って構成されています。

- ◇ 確認問題……物語・説明文・随筆・詩を読む上で必要な、基本的な読解のやり方が身
についているかを確認しましょう。
- ◇ 練成問題……物語・説明文・随筆・詩のそれぞれについて、いろいろな問題を解くこ
とで、さらに学力を高めていってください。

○ 目次 ○

1	漢字	2
2	ことば	6
3	物語(1)	10
4	物語(2)	14
5	説明文(1)	18
6	説明文(2)	22
7	随筆	26
8	詩	30

1
漢字

学習日 /

確認問題

1 次の(1)～(8)のことをばを漢字に直した場合の送りなが正しいものを、それぞれのとから一つずつえらび、記号で答えなさい。

- | | |
|---|--|
| <p>□(1) みじかい
ア 短い
イ 短かい
ウ 短じかい</p> <p>□(3) あたたかい
ア 温い
イ 温かい
ウ 温たかい</p> <p>□(5) わかれる
ア 分る
イ 分れる
ウ 分かれる</p> <p>□(7) ととのえる
ア 整る
イ 整える
ウ 整のえる</p> | <p>□(2) おそわる
ア 教る
イ 教わる
ウ 教そわる</p> <p>□(4) おこなう
ア 行う
イ 行なう
ウ 行こなう</p> <p>□(6) くるしむ
ア 苦む
イ 苦しむ
ウ 苦しむ</p> <p>□(8) まじわる
ア 交る
イ 交わる
ウ 交じわる</p> |
|---|--|

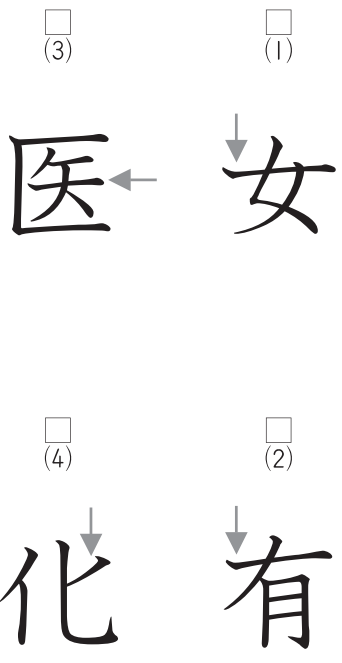
(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)
(7)
(8)

2 次の(1)～(8)の漢字の総画数そうかくすうを、それぞれ数字で答えなさい。

- | | |
|---|---|
| <p>□(1) 子</p> <p>□(3) 起</p> <p>□(5) 近</p> <p>□(7) 泳</p> | <p>□(2) 絵</p> <p>□(4) 写</p> <p>□(6) 引</p> <p>□(8) 画</p> |
|---|---|

(5)	(1)
(6)	(2)
(7)	(3)
(8)	(4)

3 次の(1)～(4)の漢字の矢じるし(↓)の画は何画目に書きますか。それぞれ数字で答えなさい。



(1)
(2)
(3)
(4)

練成問題

1 次の①～⑥の漢字を漢和辞典で引く場合について、あとのそれぞれの問いに答えなさい。

- ① 君 ② 根 ③ 相
- ④ 院 ⑤ 荷 ⑥ 聞

□(1) ①～⑥の漢字を部首さくいで引く場合、それぞれ何という部首に分類されていますか。次から一つずつえらび、記号で答えなさい。

- ア にんべん イ こごとへん ウ きへん
- エ うかんむり オ くさかんむり カ あめかんむり
- キ もんがまえ ク くにかまえ ケ はこがまえ
- コ め サ くち シ みみ

①
②
③
④
⑤
⑥

□(2) 総画さくいで引く場合、①～⑥の漢字は、それぞれ何画の漢字に分類されていますか。それぞれ数字で答えなさい。

①
②
③
④
⑤
⑥

□(3) 音訓さくいで引く場合の、①～⑥の漢字の、A音読みと、B訓読みを、それぞれひらがなで書いて答えなさい。(音読み・訓読みがそれぞれ二つ以上ある場合はすべて書くこと。また、音読みか訓読みがない場合は×を書くこと。訓読みの送りがなは書かないこと)

2 次の(1)～(6)の漢字の矢じるし(↓)の画は何画目に書きますか。それぞれ数字で答えなさい。

(5) (3) (1)

階 起 世

(6) (4) (2)

発 弱 齒

⑥	⑤	④	③	②	①
A	A	A	A	A	A
B	B	B	B	B	B

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)

③ 次の(1)～(4)の組から、漢字の成り立ちが一つだけ他の三つとちがうものをえらび、記号で答えなさい。

- (1) 「ア」 山 イ 木 ウ 末 エ 川
- (2) 「ア」 男 イ 岩 ウ 泳 エ 美
- (3) 「ア」 絵 イ 晴 ウ 球 エ 鳴
- (4) 「ア」 森 イ 集 ウ 思 エ 板

(1)
(2)
(3)
(4)

④ 次の(1)～(7)の音読みをする漢字を三つずつ書いて答えなさい。

- (1) 「コウ」
- (2) 「カイ」
- (3) 「カン」
- (4) 「キ」
- (5) 「キユウ」
- (6) 「シャ」
- (7) 「イ」

⑤ 次の(1)～(8)のことばの読み方にあてはまるものを、あとから一つずつえらび、記号で答えなさい。

- (1) 太陽 □(2) 宿屋 □(3) 場所 □(4) 仕事
- (5) 雨戸 □(6) 予想 □(7) 絵皿 □(8) 細部
- ア 上の字も下の字も音読み。
- イ 上の字も下の字も訓読み。
- ウ 上の字は音読み、下の字は訓読み。
- エ 上の字は訓読み、下の字は音読み。

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)
(7)
(8)

⑥ (例) にならって、次の(1)～(5)の文のまちがっている漢字に——線を引き、同じ読み方の正しい漢字一字を書いて答えなさい。
 (例) 仕内の名所を見てまわる。▽ (答え) 市

- (1) 海岸ぞいの高側道路を自動車が走る。
- (2) ツカダ商店ヘリモコンの電地を買いに行く。
- (3) 教頭先生の新切さに感動した。
- (4) 高校を出たら、バスの運転主になりたい。
- (5) 会社からタクシーに上車して帰路につく。

--	--	--	--	--

3

物語
(1)

学級口

/

確認問題

- 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

SAMPLE

〈来栖良夫「村一番のさくらの木」より〉

(注) 三ぞうⅡ戦争で死んだ、おばあさんのつれあい(夫)。

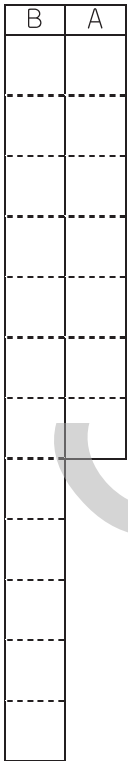
□(1) 線①「いつになったら、戦争が終わるのかねえ」という言葉からわかるお母さんたちの気持ちを書いて答えなさい。

□(2) 線②「ある日」とありますが、この日の出来事が書かれているのはどこまでですか。本文中から、その終わりの十字(も字数に数えま
す)を書きぬいて答えなさい。

(3) 線③『なるほど、大きい木だ。村長に言いつけて、すぐ切らせよう。』車を下りた人たちは、さくらの木を見上げて言いました」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

□① 車を下りた人たちは、どういう目的でさくらの木を切ろうとしていますか。それを次の二点にまとめたとき、に入るふさわしいことばを、それぞれ本文中から、Aは七字、Bは十二字で書きぬいて答えなさい。

○切ったさくらの木で、Aという目的。
○さくらの木がBのふせぐという目的。



□② 本文中で、車を下りた人たちはどんな人たちとしてえがかれていますか。

すか。次からふさわしいものをつえらび、記号で答えなさい。
ア おそろしい戦争から村の人たちを一生けんめいに守ろうとして、がんばっている人たち。

イ 戦争に勝つたためならば村の人たちが自分たちに協力するのは当たり前だと思いい、いばっている人たち。

ウ はげしい戦争に村がまきこまれることを心配して、村の人たちに注意をうながしている人たち。

エ 戦争の役に立つためにはどうすればよいかを考え、いろいろと知恵をはたらかせている人たち。

□(4) 線④「そのとき、さくらの木の下へ出てきた年よりがありました。一年生のとし子さんのおばあさんでした」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

□① おばあさんがさくらの木の下へ出てきたのは、何をするためですか。書いて答えなさい。

□② さくらの木の下でかたくなに動かないおばあさんをたどっていることばを、本文中から七字で書きぬいて答えなさい。

□(5) 本文中で、おばあさんはどんな人としてえがかれていますか。次からふさわしいものをつえらび、記号で答えなさい。

ア まわりの人のめいわくを考えずに行動する、わがままな人。

イ 大切なものを守りぬこうとする、しんの強さがある人。

ウ 自分の考えをけつして曲げようとしない、がんこな人。

エ 植物や動物の命を思いやる、やさしい心を持った人。

練成問題

- 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

SAMPLE

〈立松和平「父のふるさと」より〉

□(1) ①・② に入るふさわしいことばを、それぞれ次から一つずつえらび、記号で答えなさい。

- ア うんざり イ のんびり ウ うっとり
 エ ぼんやり オ きつぱり

①
②

□(2) ――線①「祖父の年をとった様子」を、たとえを用いて表していることばを、本文中から十四字で書きぬいて答えなさい。

□(3) ――線②「信一は涙をこぼしそうになったのだった」とありますが、このときの信一の気持ちの説明としてふさわしいものを次から一つえらび、記号で答えなさい。

- ア 祖父の家へやってくるまでの空腹にたえてきたつらさを思い返して、悲しみがこみ上げている。
 イ 祖父が、とつぜんやってきた自分をいやがらずに受け入れてくれたのがうれしく、感動している。
 ウ 祖父のやさしさにあまえてたよろうとしている自分自身をふがいなく思い、なさけなさを感じている。
 エ 祖父のおだやかでやさしい表情を目にしたことで、はりつめてい

たそれまでの気持ちがるゆるんでいる。

□(4) ――線③「また電話が鳴りださないと身がまえた」とありますが、このときの信一の気持ちの説明としてふさわしいものを次から一つえらび、記号で答えなさい。

- ア おばあさんからの電話を楽しみにしている祖父のために、ふたたび電話がかかってきてほしいと期待している。
 イ おこっている正利からの電話に祖父が出て、信一のことについて話をされるのはこまると考え、警戒している。
 ウ どこか様子のおかしい祖父が電話に出ても、まともな受け答えがでないのではないかと心配している。
 エ 電話をかけてくるのがだれなのかわからず、次に電話が鳴ったときには自分の耳でたしかめようと思っている。

□(5) 本文中に書かれている内容に合っているものを次から一つえらび、記号で答えなさい。

- ア 祖父は、親とけんかをしたために信一が自分をたずねてきたのではないかと考え、さりげなくなぐさめようとしている。
 イ 信一は、自分のすきだった祖父が、少し会わない間にすっかり年老いたことを実感して、悲しんでいる。
 ウ 祖父は、自分の家へ来たのはむしろこの正利だと思っていて、来ているのが孫の信一だということを感じてきている。
 エ 信一は、祖父のやさしい笑顔と声が本当に自分に向けられているのかと不安をいだき、たしかめようとしている。